

砂防 かがっま



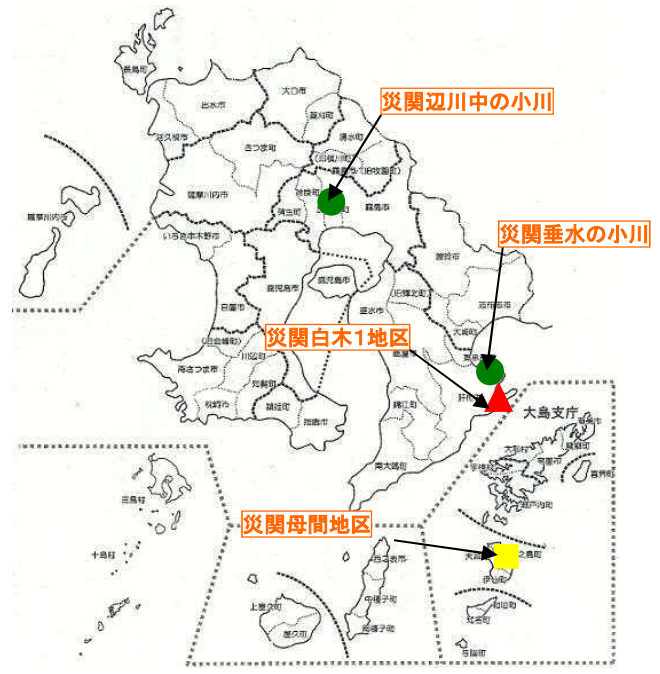
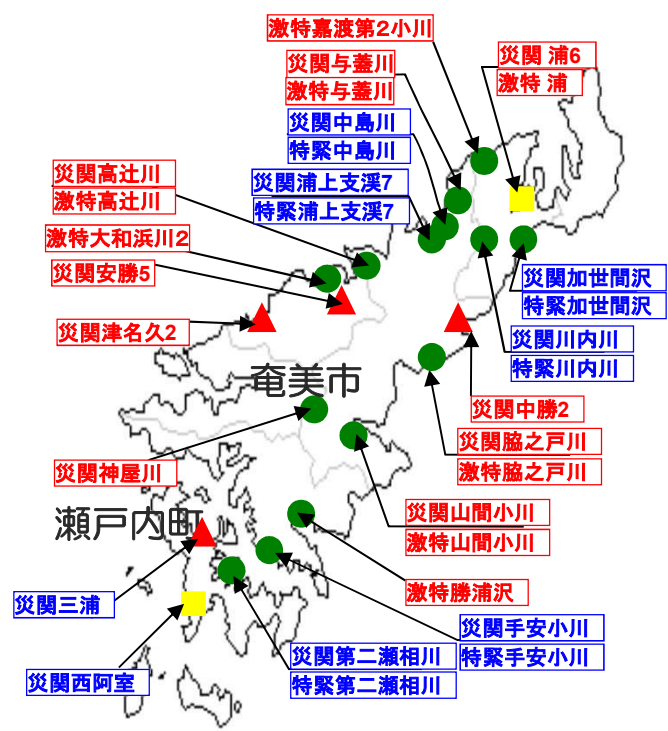
発行：鹿児島県土木部砂防課

第35号 H26.3

平成22・23・24年土砂災害の対応状況

平成22, 23, 24年は、梅雨前線等の集中豪雨により奄美地方を中心に鹿児島県内の多くの箇所で土砂災害が発生し、人的被害や家屋被害を受けました。

災害関連緊急砂防事業、砂防激甚災害対策特別緊急事業(H23～H25)、特定緊急砂防事業(H24～H26)等により早期復旧及び抜本的対策工事を推進しています。



H22・23年の災関等実施箇所位置図(奄美大島)

H24年の災関実施箇所位置図(県全域)

凡例

事業名 箇所名	赤枠: 22災	●: 砂防
	青枠: 23災	▲: 急傾斜
	橙枠: 24災	□: 地すべり

H22年度災害

事業名	被災箇所名	進捗状況
砂防激甚災害対策特別緊急事業	南大隅町 根占山本	施工中

奄美

事業名	被災箇所名	進捗状況
砂防激甚災害対策特別緊急事業	奄美市外1村 与蓋川外6件	4箇所完成 2箇所施工中 1箇所準備中
地すべり激甚災害対策特別緊急事業	龍郷町 浦6地区	施工中

H23年度災害

奄美

事業名	被災箇所名	進捗状況
災害関連緊急砂防事業	龍郷町 加世間沢	完成
特定緊急砂防事業	龍郷町外1市1町 加世間沢外5件	6箇所施工中

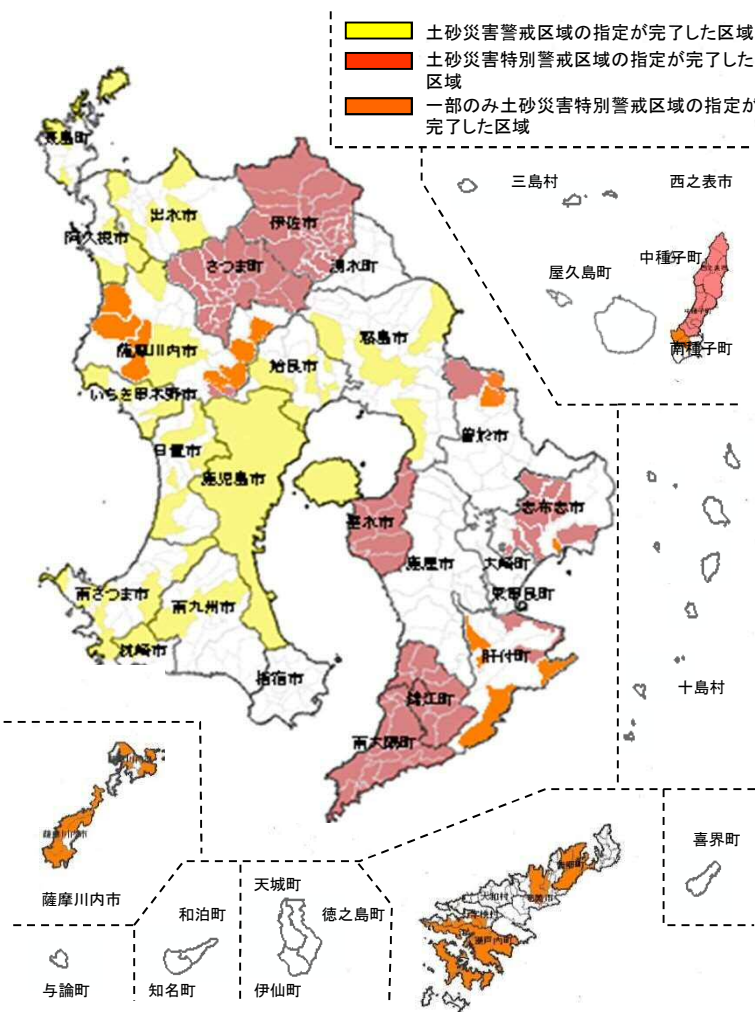
H24年度災害

県本土・奄美

事業名	被災箇所名	進捗状況
災害関連緊急砂防事業	肝付町外1市 垂水の小川外1件	1箇所施工中, 1箇所完成
災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業	肝付町 白木1地区	完成
災害関連緊急地すべり事業	徳之島町 母間地区	完成

土砂災害警戒区域の指定状況

指定箇所の内訳(平成26年3月11日現在)



- 土砂災害警戒区域の指定が完了した区域
- 土砂災害特別警戒区域の指定が完了した区域
- 一部のみ土砂災害特別警戒区域の指定が完了した区域

●土砂災害警戒区域に指定されると

警戒避難体制の整備(7条)

土砂災害から生命及び身体を守るため、災害情報の伝達や避難が早くできるように警戒避難体制の整備が図られます。

●土砂災害特別警戒区域に指定されると

1. 特定開発行為に対する許可制(9条)

住宅地分譲や、老人ホーム・病院などの災害時要援護者関連施設の建築を目的とした開発行為には許可が必要です。

2. 建築物の構造規制(23条)

居室を有する建築物の構造が、想定される衝撃に対し安全かどうか、建築前に建築確認がされます。

3. 建築物の移転及び支援措置(25条)

著しい損壊が生じる恐れのある建築物の所有者等に対し、移転等の勧告が図られ勧告による移転者には融資等の支援措置があります。

【支援措置】

- 住宅金融支援機構の融資
- がけ地近接等危険住宅移転事業による補助

●市町村の役割(警戒避難体制の整備)

- 市町村地域防災計画に、土砂災害を防止するために必要な警戒避難体制に関する事項について定める。(7条1項)
- 土砂災害に関する情報の災害時要援護者施設への伝達方法を定める。(7条2項)
- ハザードマップ作成等の措置を講じる。(7条3項)

●県の役割(市町村の支援)

- 土砂災害警戒区域等を指定する。
- 土砂災害警戒情報、雨量情報等を発信する。

鹿児島県における土砂災害警戒区域等の指定状況

市町村名	平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		合計		
	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	
日直市	480	0																			480	0	
霧島市	787	0													9	9					796	9	
いちき串木野市	243	0																			243	0	
南さつま市	162	0	83	0	243	0									15	14					503	14	
始良市	306	0																			306	0	
鹿児島市			301	0					2,966	0											3,267	0	
枕崎市			24	0	116	0								6	6						146	6	
阿久根市			195	0	204	0											11	6			410	6	
出水市			164	0	166	0											2	2			332	2	
薩摩川内市			614	0	5	0											18	11	429	387	290	265	
南九州市			13	0	220	0											6	5			239	5	
長島町					271	0															271	0	
垂水市(H20完)					49	42	137	105	165	142												351	282
錦江町(H21完)					154	150	29	28	51	48	83	80										317	306
南大隅町(H21完)								279	253	197	173											476	423
さつま町(H23完)									400	378	400	378	400	372	609	558						1,409	1,308
伊佐市(H23完)									302	288	302	288	257	253	154	145						713	686
肝付町													72	69	84	71	139	133	89	84	384	357	
西之表市(H25完)															113	104			89	85	202	189	
指宿市															13	8					13	8	
屋久島町															12	9					12	9	
鹿屋市															16	14	8	8			24	22	
曾於市															6	6	125	116	27	24	158	146	
大崎町															1	1					1	1	
志布志市															150	146	86	82	115	110	351	338	
奄美市															121	114	72	63			193	177	
瀬戸内町															4	2	59	39	50	45	113	86	
徳之島町															4	4					4	4	
中種子町(H25完)																	65	58	13	13	78	71	
天城町																	6	5			6	5	
宇検村																	16	12			16	12	
大和村																			6	6	6	6	
龍郷町																			35	28	35	28	
南種子町																			32	31	32	31	
喜界町																			2	2	2	2	
合計(35市町村)	1,978	0	1,394	0	1,428	192	166	133	3,461	443	982	919	729	694	1,341	1,217	1,018	911	748	693	13,245	5,202	

平成25年度土砂災害防止に関する絵画・作文の受賞作品・受賞者

国土交通省と鹿児島県では、毎年6月を『土砂災害防止月間』と定め、その一環として次世代を担う小中学生を対象に『土砂災害防止に関する絵画・作文』を募集しています。

平成25年度は県下40の小・中学校から145点の作品の応募があり、国土交通大臣賞を1名、国土交通事務次官賞を5名が受賞しました。

絵画部門

小学生の部	国土交通事務次官賞	鹿児島市立伊敷台小学校	4年	高山 幸大
		瀬戸内町立秋徳小学校	6年	芋高 舞
	鹿児島県知事表彰最優秀賞	鹿児島市立伊敷台小学校	5年	立森 裕佳子
		鹿児島県知事表彰優秀賞	瀬戸内町立秋徳小学校	6年
中学生の部	国土交通事務次官賞	鹿児島市立桜丘中学校	1年	上村 雪萌
		鹿児島県知事表彰最優秀賞	枕崎市立枕崎中学校	3年
	鹿児島県知事表彰優秀賞	南大隅町立根占中学校	2年	榊 日菜子
		南大隅町立根占中学校	2年	宿利原 亜美
		鹿児島市立桜丘中学校	1年	上村 雪萌

作文部門

小学生の部	国土交通事務次官賞	奄美市立朝日小学校	4年	赤塚 将
	鹿児島県知事表彰最優秀賞	鹿児島市立紫原小学校	6年	増田 百香
		鹿児島県知事表彰優秀賞	瀬戸内町立古仁屋小学校	6年
			錦江町立大根占小学校	4年
中学生の部	国土交通大臣賞	阿久根市立大川中学校	2年	大田 和
	国土交通事務次官賞	鹿児島純心女子中学校	2年	東 彩花
	鹿児島県知事表彰最優秀賞	鹿児島市立松元中学校	1年	田口 友香
		鹿児島県知事表彰優秀賞	鹿児島大学教育学部附属中学校	1年
			薩摩川内市立祁答院中学校	1年

国土交通事務次官賞



鹿児島市立伊敷台小学校 4年 高山 幸大



鹿児島市立桜丘中学校 1年 上村 雪萌



瀬戸内町立秋徳小学校 6年 芋高 舞

鹿児島県知事表彰 最優秀賞



鹿児島市立伊敷台小学校 5年 立森 裕佳子



枕崎市立枕崎中学校 3年 藤元 樹里

国土交通大臣賞

「故郷と共に生きる」

阿久根市立大川中学校 2年 大田 和

雄大な東シナ海に沈む夕日は、キラキラと輝き、今日も私たちの町を赤く染めています。夏が近づくと、川にはホタルが舞い、山は青々と茂り緑が鮮やかです。人々の心を和ませる風景が広がるここは、私の故郷大川です。私は、ここ大川で生まれ育ちました。私の両親、祖父母、先祖代々、この地に生きています。この美しい故郷大川に、信じられない光景が広がった42年前。北薩地方を中心に甚大な被害が出た集中豪雨があったのです。

昭和46年7月23日。その日の雨は今まで経験したことのない土砂降り、家のかわらがはずれているわけではないのに、雨漏りするほど、ひどかったそうです。阿久根市では、23日午後5時から6時の1時間に106ミリという、当時の県本土最大の降雨量を記録しました。この激しい雨で、大川の尻無集落の山の土砂が一気に崩れ、家が壊され、流されました。当時の写真を見ると、あまりの悲惨な光景に思わず息をのみます。

「お父さんの同級生も、家が流されて亡くなった。かわいそうで悲しかったよ。その子は優しい子だった。忘れられないよ。」

父の言葉を聞いて、私は絶句しました。まさかの父の同級生が亡くなっていたなんて。その一家は6人が生き埋めになり、2人亡くなったとのこと。父は当時10歳、小学校4年生です。亡くなった父の同級生も同じ年。この世に生まれてわずか10年しか生きられなかったなんて。土砂にのみこまれて、苦しきだろう。私は胸が押しつぶされそうになりました。

悪夢のような時が過ぎ、雨が少しやんでから、父と母、祖母は、尻無川を見に行ったそうです。そのときの川の様子は、日頃見ていたキラキラと水面が光る、美しいせせらぎの川と全く違いました。雨がやんでいても、茶色に濁り、ゴウゴウとすさまじい勢いで流れていました。道路は水があふれ、水浸し。堤防は壊れ、行方不明の方を探している姿もあったようです。42年前の、たった1日の出来事でした。

さて、阿久根市で、現在「防災マップ」が各家庭に配付されています。この42年前の話を聞いて、その「防災マップ」をもう一度開いてみました。私は、背筋が凍るような思いにかられました。それは、私の住んでいる尻無集落が、土石流発生危険渓流があり、土砂災害特別区域、いわゆる「レッドゾーン」になっているからです。私が毎日生活しているところが、危険な場所であった……。不安と怖さでいっぱいになりました。あれから42年間、大きな災害もなかったことが幸せであったと同時に、土砂災害が起こらないよう、集中豪雨が降らないよう願うばかりです。

しかし、願うだけでいいのでしょうか。現在の地球の気象状況では、いつ集中豪雨が発生するか予測はできません。私は、災害が起こったときに、どのような行動をとればいいのか、42年前に悲しみを体験した祖母と父と母と一緒に一生懸命考えました。そこで確認したのは次のようなことです。日頃から危険な箇所を確認する

こと、避難場所を確認すること、「自分たちは大丈夫」という思いを決してもたないこと。そして、近所の方々や地域の方々と日頃からいつも支え合って生きていくことです。日頃から付き合いがなければ、いざという時に、本当に助け合って生きていくことができないと思います。

42年前の集中豪雨。自然豊かな故郷大川の自然。また、牙をむいて、人の命を奪ってしまう自然。どちらも同じ自然です。私にとって大好きな大川の自然に対して畏敬の念をもち、地域の人々と支え合って生きていくこと。「故郷と共に生きる」ことの大切さを私は今、しみじみと感じています。

国土交通事務次官賞

「こわかったあの時のごう雨災害」

奄美市立朝日小学校 4年 赤塚 将

ぼくは、3年生まで、山や川に囲まれた自然ゆたかな住用小学校に通っていました。1年生の時です。ゴーゴーという、耳がいたくなるほどの大きな音で雨がふっていました。学校の近くにある大きな役勝川がいっぱいになり、小学校のグラウンドに川の水が入ってくるのを、教室から見ていました。みるみるうちにグラウンドがプールのようにになりました。教室の電気がとつ然消えつなくなり、水も止まり、水道やトイレが使えなくなってくると、とても不安になりました。学校には中学生や保育所の人、お年よりのおばあちゃんなど、たくさんの人たちがひなんしてきました。学校から下校できなかったので、ぼくたちは学校の1かいに集まっています。いつもきゅう食を作ってくれる人が、きゅう食で余ったごはんとスープを持ってきてくださり、少しほっとしました。

夕方、お父さんが仕事でむかえに来ることができなかったので、いとこのお父さんが学校にむかえに来てくれました。道路に出てみると、辺り一面が川みたいになっていてとてもびっくりしました。道路には、山から流されてきた木や土砂、水に流されてきたゴミがいっぱいで、道路が見えなくなっていました。ぼくは、ひざまで水につかりながら、みんなで家に帰ったことを今でもしっかり覚えています。

家に帰り着くと、知り合いがひなんしていました。

「大じょうぶだった。」

と聞かれ、ぼくはゆっくりうなずきました。その日、ぼくはお母さんと知り合いとで過ごし、お父さんは帰ってきませんでした。一日たって帰ってきたお父さんは、服はどろだらけでよごれ、顔はとてもつかれているように見えました。

ぼくは今、朝日小学校の4年生になりました。ぼくのお父さんは、建設会社で働いています。お父さんに聞いた話ですが、今でも、あの時のごう雨災害でひがいにあった場所の工事をしているそうです。

また、砂ぼうダムについて聞いてみました。砂ぼうダムは、流れ出す土砂を止めたり、山のくずれやすい部分を保ごしたり、土石流を止める役割をするそうです。

土石流が発生する前は、山なりがしたり、雨がふり続けているのに川の水が少しへったり、にごったり、木が流れてきたりするようです。土石流の速さは、自動車が走る速さと同じぐらいで、およそ時速40キロと、とても速く、家や車も流してしまうぐらいの力をもっているそうです。

今の天候は、昔とくらべて雨が強く、変わってきているようです。土砂災害のひ害も大きくなり、回数もふえてきているようです。ぼくは、

「自分の命は自分で守る。」

を合言葉に、危ないところからひなんする、みんなで集まって助け合う、あわてないように声をかけ合う、などをしていけるようにしていきたいと思います。そして、この気持ちをいつも持って、家族や友達と一しょになって、土砂災害のことを勉強していきたいと思います。また、土砂災害が起きても、住用で経験したようにみんなで助け合いながら、協力してのりこえていきたいと思います。

~~~~~ ☆☆☆ ~~~~~ ☆☆☆ ~~~~~ ☆☆☆ ~~~~~

### 「砂防堰堤に感動」

鹿児島純心女子中学校 2年 東 彩花

東日本大震災には及ばないにしても、わたしの住む鹿児島県は、非常に自然災害の多い県ではないだろうか。今年は桜島大正噴火から100年、八・六水害から20年と災害に関する報道をよく目にし、耳にする。また鹿児島ではないが、各地で豪雨による水の被害のニュースも目にする。逆に干ばつ被害に関しても目にする。よく言われている温暖化が原因なのだろうか。

先日、叔父と桜島にある国際火山砂防センターを訪ねた。建物本体が避難施設であることや、横にある川が重要なものであることを知った。そこには水は無く、川というよりも幅の広い溝というイメージを持った。川はコンクリートに覆われ、いくつか上流に向かって、ダムのように堰き止められるように壁があるのが見えた。

自然の中の人工物に、少し違和感を覚えた。

そのことを叔父に話すと、ここのようにむき出しのものばかりではないことを教えてもらった。周りの景観に沿った構造の砂防堰堤もあるそうだ。実際に見てはいないが、いちき串木野市の冠嶽にある砂防堰堤は、驚くほどきれいらしい。景観を考え、コンクリート構造の表面を自然の大きな岩で隠し、砂防堰堤を作っていて、一見砂防堰堤には見えないほどだそうだ。インターネットで見ると、確かに周りと合っているように見えた。また砂防ダムと一般的にいう呼び方もおかしいということも教えてもらった。通常ダムは貯水を目的としているらしく、砂防堰堤というのが正しいそうだ。なかなか細かくて理解するまでにはいかないが、そうらしい。

センターで砂防について見て、学んで、考えた。初めて見た時に感じた、コンクリートの溝が、とても頼もしい物だということが解った。上流から流れ出る大量の土砂を、徐々に下流に流す仕組みであることが解った。特に溶岩と火山灰を含む桜島は、大切な構造物であることが解った。またなぜ幅も広く、大きいのかということも解った。定期的に、溜まった土砂を取り除くため、重機の往来や作業効率を良くするために大きくしてあるそうだ。

帰りの車の中でいろいろ砂防堰堤について話した。すると毎日通学で通っている道からも、いろいろなところに、大きなものから小さなものまであって、見えるということだった。本当に見えることも知った。町のすぐ上にあるものや、山や団地の中腹にあるもの、その一つ一つが、わたしたちの生活を守ってくれているものだと知ると、少し前まで違和感を覚えたものが、何故か少しも違和感の無いものに思えてきた。

今までに確かに、あれって何だろう。何のためのものだろう。と思ったこともあったように思う。でもすっかり忘れていた。興味が無かったことも一つの原因かも知れないが、実は時間の経過とともに、人工の構造物でも受け入れていたのかも解らない。でも遠くから見ているからだと言った。近くから見ると、誰でも、いつでもやはり違和感を覚えて当然と言った。近くに住んでいる人たちは、おそらくストレスに感じているのではないかも言った。

叔父の言葉で印象的だったのが、  
「景観を考慮することはとても大切なことだが、一番大切なことは、人命で生活だ。」  
という言葉だった。

わたしたちの命や生活を守るために造られている砂防堰堤、わたしの知らない時、知らないところで活躍してくれている。自然の猛威と人間の知恵比べ、とてもおもしろいと思い、それを叔父に言うと叱られた。自然災害は起こらない事に越したことは無いが、備えは大切なことには間違いない。

今回災害について考えることで、これから自分が意識しておかなければならないことが少し解った。災害が起こった時に、まず砂防堰堤などがあるところには近づかない。なぜならば、そこは水の影響を受けやすいところだから造られているということだ。このことが解っただけでも収穫だった。

ただもっとじっくりと見ておけば良かったと、帰ってから思った。桜島の砂防堰堤を近くで、大きさや造りを実感してみたいと思った。しかしそれは出来ない様だが、たまに一般公開があるようで、機会があったらぜひ参加してみたいと思った。そしていちき串木野市の砂防堰堤は見に行きたいと思った。

## 鹿児島県知事表彰 最優秀賞

### 「土砂災害への備え」

鹿児島市立紫原小学校 6年 増田 百香

私の祖父は日置に住んでいます。その祖父の家へ行く途中に一つの大きな公園があります。その公園の名前は「毘沙門公園」で、昔、大きな地すべりが発生したところです。

その地すべりは、平成5年9月20日、午後8時頃発生しました。幅300メートル、延長250メートル、移動土塊量約100万立方メートルもの大規模な地すべりで、民家2戸全壊、死者2名、負傷者3名という被害を出しました。

そして、この「毘沙門公園」は、再度災害の防止を図るため、地すべり防止工事に着手し、平成7年の3月に完成しました。この公園には、約2ヘクタールもの安全なスペースを作りました。

私は、この日置郡日吉町毘沙門地区で発生した、大規模な地すべりについて調べてみて、やはり土砂災害は命を落とす危険があるためこわいなと思いました。

この災害を調べていると、ほかにも平成5年には大きな災害があったということがわかりました。

それは、「8・6水害」です。8・6水害とは、平成5年8月6日におこった、鹿児島県本土の北側から中部を中心に百年に一度とも言われる程の記録的な集中豪雨に見舞われた水害です。8月6日の鹿児島市の17時から18時の間には73.5ミリメートル、日置郡山町の18時から19時の間には99.5ミリメートルと、大量の雨を降らせました。この大雨のえいきょうで、甲突川が氾濫し、甲突川に架かっていた五つのアーチの石橋のうち、「武之橋」「新土橋」の二つが流されてしまいました。また、竜ヶ水地区では、土石流、斜面崩壊が55カ所以上発生し、車800台、住民・列車の乗客ら約2,500人らが国道上にとりのこされましたが、海上より救助されています。私の母の友達は、国道3号線で車が水につかかってしまったそうです。

この「8・6水害」は、浸水被害は約1万4千戸で、死者は48名、いまだに行方不明者が1名いるという大規模な水害となりました。

ほかに、平成5年にはたくさんの土砂災害がおきています。平成5年は、土砂災害での死者・行方不明者は合わせて121名、負傷者は348名も出ていて、住家被害6万247棟で被害総額は約3,002億円でした。

こんなにも、たくさんの被害がでてしまった理由は、集中豪雨や台風のせいだと考えられます。

集中豪雨や台風がおこってしまうのは、自然のことだから仕方がないことだとは思いますが、でも、私達には、被害を最小限に食い止めることはできると思います。

それは、ひ難勧告がでたら、はやめにひ難をすることです。ひ難をはやめにできたら、土砂崩れなどで民家は全壊するかもしれないけれど、大切な人の命は守ることができます。

そしてもう一つ、日頃からひ難する準備をしておくということです。土砂災害は、いつ、どこでおきるのかは、だれにもわかりません。だからこそ、すぐひ難ができるようにしておくべきだと私は思います。

8・6水害から20年。あの時のような大雨は、またいつか降って、またたくさんの土砂災害をおこしてしまうと思います。その時、みんながどのように対処できるのかで被害の大きさは変わってくると思います。

だから私は、災害がおこる前から準備をしっかりと、いざというときはすぐひ難ができるようにしたいです。そして、みんなに土砂災害のおそろしさを伝えておきたいです。

~~~~~ ☆☆☆ ~~~~~ ☆☆☆ ~~~~~ ☆☆☆ ~~~~~

「水害から学ぶ命の大切さ」

鹿児島市立松元中学校 1年 田口 友香

8月6日。この日はわたしの住んでいる鹿児島で大きな水害があった日だ。毎年、この日になると8・6水害のことがテレビで報道される。わたしは災害の映像を見るのが苦手なので毎年あまり見ないで過ごしていた。だが、今年はちがった。終業式で言われた校長先生の話が耳からはなれなかったのだ。

「夏休みになると、広島や長崎に落とされた原子爆弾のことや、鹿児島であった8・6水害のことについて、テレビや新聞で報道されると思うのでそのことについてそのことについて考えてみて下さい。」

という言葉だった。8月1日の出校日でも、同じように言われた。

そして6日。やはり今年も8・6水害のことについて報道された。映像の中では、川が氾濫したり、水が建物の地下までたまったりと、びっくりするような映像が報道されていた。と同時に、わたしは気になることがあった。

「建物の地下にいた人たちはどうなったのだろう。」

ということだった。たしかに、雨が地下に少しずつたまってきたのなら、みんなが逃げられるだろう。だが、あの映像を見るかぎり、決して少しずつではなかった。わたしは、考えるほどこわくなった。すると母が

「この時にね。」

と、ゆっくり話し始めた。

「川の近くや地下にいた人の中には、亡くなった人もいるんだよ。」

と、少し悲しげに言った。わたしは、何と言えがいいのか分からなかった。その時のことを思うと、すごく悲しくなった。

もっと深く知りたくなったので、近くの図書館へ行った。すると、ぱったり小学校の時の先生に会った。先生に図書館へ来た理由を話すと、

「小学校に支援の先生いたでしょ。あの先生8・6水害の時、ちょうど天文館にいて、水害にあったんだって。先生その時、お腹に赤ちゃんがいてすごく大変だったらしいよ。でもね、その時、周りの人たちが必死になって赤ちゃん守ってくれたらしくてね。助かったし、嬉しかったって言ってたよ。」

わたしはびっくりした。その時の先生のことを思うと胸がいっぱいで、嬉しくなった。先生と別れた後、図書館の先生が話しかけてくれた。

「わたしの知り合いはね、天文館の地下にお店をつくってね。その日がオープンの日だったのよ。お店ダメになっちゃった。その人、別の所にまたお店をつくったよ。すごく残念がってたけどね。」

わたしは、すごく苦しくなった。その場にいづらくなって帰ってしまった。

ちょうど20年前の1993年、8月6日8・6水害があった。わたしは災害が起きるたびに、人の命がうばわれていくのはなぜなのだろうかと考えた。

災害が起こるのは、だれにもどうしようもないことだとわたしは考える。でも、今まで起こってきた災害の中には、まったく同じような水害や、台風などがあるはずだ。では、なぜ、2回目に同じような災害が起きた時にも命がうばわれてしまうのか。それは、1回目に起きた時、その場にいた人や、経験した人が何も知らないたくさんの人たちにどういった経験をしたのかしっかり伝えられていないということ。伝えられているのに、自分には関係ないといって聞きながす人がいることが、最大の原因だと私は考える。

一人一人が、生活の中で起こった災害を、一人でも多くの人に伝え、伝えられた人は、自分のことのようにして考える。ということが、一人でも多くの命をすくうことにつながるとわたしは考える。

NPO鹿児島砂防ボランティア協会による砂防技術講習会

平成26年1月17日(金)「マリパレスかごしま」にて、NPO法人鹿児島砂防ボランティア協会主催(後援:鹿児島県・鹿児島県市町村社会基盤整備促進協議会)の「平成25年度砂防技術研修会」が開催され、協会会員、県及び市町村職員など約120名が参加しました。

この研修会は、砂防ボランティア協会の会員がこれまでの経験・技術力を活かし実施している砂防施設等の巡視点検・周辺住民への啓発活動などの更なる技術研鑽を図るため、平成20年から毎年開催されています。

研修プログラム

- 主催者挨拶 NPO法人 鹿児島砂防ボランティア協会理事長 平山 弘
- 来賓挨拶 国土交通省大隅河川国道事務所 大坂 剛
- 技術講話1 「桜島の大規模噴火災害に備える」
鹿児島大学地域連携防災教育センター特任教授 下川 悦郎
- 技術講話2 「住民から見た土砂災害とその対応」
砂防ボランティア整備推進機構総括研究員
(元国土交通省砂防部長) 牧野 裕至
- 行政報告 「桜島砂防の現状について」
国土交通省大隅河川国道事務所長 大坂 剛
「最近の砂防行政を取り巻く話題」
鹿児島県土木部砂防課長 植野 利康



平成25年度 赤木賞の受賞

平成26年2月19日(水)「砂防会館 別館」にて、平成25年度の赤木賞の授与式があり、砂防行政の発展及び砂防技術の向上に多大の功績があった人物に贈られる赤木顕功賞を元鹿児島県土木部砂防課長の平山弘氏(現NPO法人鹿児島砂防ボランティア協会理事長)が受賞されました。



授与の写真

平山 弘 氏の経歴紹介

昭和43年3月鹿児島県に採用。
宮之城土木事務所次長兼工務第一課長
土木部砂防課技術補佐
加世田土木事務所長
加治木土木事務所長
伊集院土木事務所長
土木部砂防課長
等を歴任され、平成15年3月に退職。

現在、NPO法人鹿児島砂防ボランティア協会理事長



受賞者集合写真(平山 弘 氏前から2列目の左から3番目)

平成25年度防災教育の推進(実績)

県では、土砂災害に関する知識等を後生・次世代に伝承し、災害時に迅速、的確な避難行動がとれるよう、各振興局において管内の小学校を訪問し、出前講座や現場見学会を開催しています。
出前講座修了後には、クイズ形式による検定などを行い、一人ひとりに『県土砂災害ジュニアマスター認定書』を交付しています。

砂防読本を活用した出前講座・現場見学会実績

平成25年度実績

| 実施日 | 振興局等 | 学校名 | 学年 | 参加人数 | 現場見学会 |
|----------|-------|-------------------------|-------|-----------|-------|
| H25.5.30 | 始良・伊佐 | 霧島市立牧之原小学校 | 5～6年生 | 61人 | |
| H25.6.6 | 始良・伊佐 | 霧島市立福山小学校 | 1～6年生 | 24人 | |
| H25.6.12 | 大島 | 大和村立名音小学校 | 1～5年生 | 7人 | |
| H25.6.13 | 屋久島 | 屋久島町立宮浦小学校 | 4年生 | 39人 | |
| H25.6.18 | 熊毛 | 南種子町立大川小学校 | 1～6年生 | 15人 | |
| H25.6.18 | 大島 | 龍郷町立赤徳小・中学校 | 小6年生 | 11人 | |
| H25.6.19 | 大島 | 大和村立大棚小学校 | 5～6年生 | 6人 | |
| H25.6.21 | 瀬戸内 | 瀬戸内町立伊子茂小学校 | 1～6年生 | 8人 | |
| H25.6.24 | 大島 | 奄美市立市小・中学校 | 小2～中2 | 5人 | 現場見学会 |
| H25.6.26 | 瀬戸内 | 宇検村立久志小・中学校 | 小1～中3 | 10人 | |
| H25.6.27 | 大島 | 大和村立大和小学校 | 5～6年生 | 19人 | |
| H25.6.28 | 大島 | 奄美市立佐仁小学校 | 3～6年生 | 7人 | |
| H25.6.28 | 喜界 | 喜界町立早町小学校 | 4～6年生 | 50人 | |
| H25.7.2 | 大島 | 龍郷町立秋名小学校 | 1～6年生 | 16人 | |
| H25.7.5 | 大島 | 龍郷町立龍瀬小学校 | 5～6年生 | 16人 | |
| H25.7.11 | 大隅 | 肝付町立内之浦小学校
肝付町立岸良小学校 | 4年生 | 17人
4人 | 現場見学会 |
| H25.7.21 | 瀬戸内 | 宇検村内の小学校 | 1～6年生 | 15人 | 現場見学会 |
| H25.8.4 | 瀬戸内 | 瀬戸内町内の小学校 | 1～6年生 | 32人 | 現場見学会 |
| H25.12.6 | 北薩 | さつま町立山崎小学校 | 5年生 | 26人 | |
| H26.1.28 | 北薩 | 長島町立汐見小学校 | 1～6年生 | 10人 | 現場見学会 |
| H26.2.13 | 沖永良部 | 和泊町立国頭小学校 | 5年生 | 18人 | |
| H26.2.20 | 大島 | 龍郷町立龍南中学校 | 1年生 | 34人 | 現場見学会 |



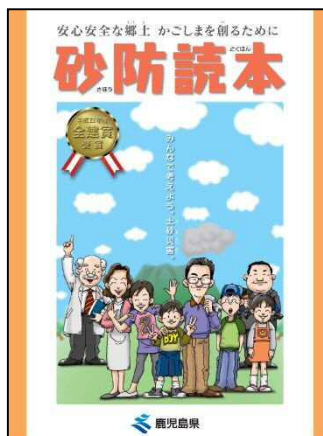
福山小学校(霧島市)【H25.6.6】



大和小学校(大和村)【H25.6.27】



須古小川工区現場見学会【H25.7.21】



「土砂災害ジュニアマスター認定書」

出前講座終了後に、クイズ形式の検定などを行い、一人ひとりに「県土砂災害ジュニアマスター認定書」が贈られました。

『土砂災害防止の集い2014』開催のお知らせ

近年発生した土砂災害を振り返り、その実態・対応状況・今後の取組等についての基調講演や土砂災害体験等による避難対策等の事例発表などを行います。

これからの防災を考える貴重な機会です。参加費は無料です。是非ご参加ください。

CPD・CPDS登録講習

■日 時■ 平成26年4月23日(水) 12:50～15:20
■会 場■ 市町村自治会館 4階ホール(鹿児島市鴨池新町7-4(県庁前))

●プログラム●

★基調講演 その1 (13:00～13:35)

「桜島大正噴火の随伴災害」

岩松 暉 鹿児島大学名誉教授

★基調講演 その2 (13:35～14:10)

「土石流に関する表現方法(呼称)の変遷」

西本 晴男 筑波大学教授

「災害を振り返って

～我がまちの防災対策～ (14:20～15:20)

徳田 康光 龍郷町長

香山 泰久 徳之島町副町長

「桜島大正噴火の随伴災害」

岩松 暉 鹿児島大学名誉教授

～火山災害は噴火だけではない。桜島大正噴火は1年余で終息したが、分厚い降灰と軽石により山地は荒廃し、10年近く土石流や水害が続いた。地震によるがけ崩れや液状化もあった。霧島・始良方面では地盤沈下もあった。桜島大正噴火の随伴災害について講演していただきます。～



「土石流に関する表現方法(呼称)の変遷」

西本 晴男 筑波大学教授

～古くから「山津波」「山潮」などと呼ばれていた土石流という現象について、言葉としての表現方法が、研究の進展、社会的関心の深まりなどとともにどう変化してきたのかについて講演していただきます。～



【編集後記】

本年度最後の砂防メールとなります。関係者の皆様へ本県砂防行政に係る情報発信に努めてきましたが、今後も更なる内容の充実を努めたいと考えております。

さて、本県の平成25年度は、比較的穏やか1年であったと思っております。

平成5年の鹿児島豪雨災害から20年が経過し、災害に対する記憶の風化が心配です。日頃から災害への備えを怠りなく、安心・安全な郷土づくりのため、これからも砂防行政の推進に取り組んでいきましょう。

(編集長 技術補佐 T・H)

ご意見・ご感想をお寄せ下さい

TEL:099-286-3618 FAX:099-286-5627

E-MAIL: sabou@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島県ホームページ: <http://www.pref.kagoshima.jp>

土砂災害発生予測情報システムホームページ: <http://www.doboku-bousai.pref.kagoshima.jp>

“みんなで防ごう土砂災害”